

機関番号：62618

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20720128

研究課題名（和文）

樺太方言と北海道方言の言語変容に見られる関係についての調査研究

研究課題名（英文）

A Sociolinguistic Study on the Relationship of the koine-formation between Karafuto and Hokkaido Japanese

研究代表者

朝日 祥之（ASAHI YOSHIYUKI）

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・准教授

研究者番号：50392543

研究成果の概要（和文）：サハリン，北海道，東京，韓国で実施した樺太方言話者，ならびに北海道方言話者への面接調査で収集したデータを用い，樺太方言・北海道方言における言語変容を過程の関係を考察した。移住開始時から第二次世界大戦終了までの間は類似した言語体系が形成されたが，戦後の異なる社会言語学的状況のもと，樺太方言は個人差が顕著になる方向への言語変容，北海道方言は東京語化の言語変容になることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This study investigated two Japanese regional koine-formations in Karafuto and Hokkaido dialects based on the research data collected in Sakhalin, Hokkaido, Tokyo, and Korea. Detailed analyses of the research data revealed that Karafuto and Hokkaido dialect maintained similar features in the koine formation until the end of the WWII. However, the direction of the linguistic change differs between them after the WWII, this can be observed in the increase of the emphasis on the individual features in Karafuto whilst Hokkaido dialect is characterized by the Tokyo Japanisation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会言語学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：方言接触・樺太方言・北海道方言・コイネ

1. 研究開始当初の背景

樺太方言が北海道方言と密接な関係にあることは，平山（1957）で指摘されている。北海道方言が，移住者が持ち込んだ方言によって形成された接触方言（コイネ）であるならば，北海道からの移住者が話者の多数を占める樺太方言は，そのコイネを基盤として形成された「コイネのコイネ」である。

申請者はこれまでサハリンで行なってきた調査（平成17年度文部科学省科学研究補助金（若手研究（B）「サハリンに残存する日本語の地位に関する調査研究」（課題番号17720110，代表者朝日祥之））から，樺太方言と北海道方言との間に類似した特徴を観察してきた。二つの方言の関係を明らかにするには，平山が調査した当時の言語状況から現在に至るまでの言語

変容を明らかにする必要がある。同時に、両者はともにコイネであることから、調査方法を十分検討した上でデータ収集を行う必要もある。なお、これまで、本研究課題に関連した研究は、小野（1993）でその可能性が指摘されるに留まっている。

2. 研究の目的

本研究で明らかにしたい点は、大きく分けると次の2点にまとめられる。

I. 戦前と現在における樺太方言と北海道方言の特徴把握

戦前と現在の樺太方言と北海道方言に見られる特徴を把握する。その手順として、①戦前の樺太方言・北海道方言の特徴、②現在の樺太方言・北海道方言の特徴をそれぞれ把握する。その際、当時の言語生活に関する情報収集にもとづく調査（文献調査）と現地で言語生活に関する情報収集をインタビューで行う調査（面接調査）を実施する。

調査対象は、アクセント、音声、語彙、文法のそれぞれの項目とする。それぞれの項目におけるデータは戦前のものは文献調査によって、現在のものは面接調査によって収集する。文献調査は、「全国小学児童綴方展覧会」や方言語彙集などの情報を用いながら行う。調査地点は、戦前の樺太が敷香（現ポロナイスク）であったことから、サハリンでの調査はポロナイスクと州都であるユジノ・サハリンスクで実施する。北海道での調査は、内陸部方言が使用されている地域（旭川）、樺太引揚者が多数を占める地域（稚内）、海岸方言が用いられる地域（函館）、北海道の文化産業の中心地（札幌）を調査地点とする。

II. 樺太方言と北海道方言で見られる言語変容の関係

記述の通り、戦前に形成された樺太方言と北海道方言が類似した関係にあることは平山（1957）にあるとおりである。本研究が明らかにすべきことがらは、戦後現在に至るまでの間に生じた言語変容の性質の差が、現在の樺太方言、および、北海道方言の姿にどのように表れるかである。

3. 研究の方法

研究は、（1）文献調査と（2）面接調査を企画・実施することで進められた。

（1）文献調査

戦時中の樺太に関する言語生活についての資料や方言資料などに関する文献を収集する。

（2）面接調査

現在のサハリン、北海道における言語使用について、文献調査で収集された情報を基盤とした調査票に基づくインタビューを行う。

4. 研究成果

ここでは、樺太方言に見られる特徴を中心に概説し、それと北海道方言との関係について考察を行う。平山（1957）によれば、「・・・樺太方言の主流音調においては、北海道と共通する点が多く、音調以外の音韻、語彙、語法などもすべて北海道の縮図の観がある」と述べる。その意味でも、終戦までの樺太・北海道方言はほぼ共通した体系を備えていたと考えられる。

4. 1. アクセント

1930年代の樺太方言、北海道方言のアクセントは、平山（1957）によれば、表1のようである。

表1 1930年代における二拍名詞アクセント

	1類	2類	3類	4・5類 (a,e,o)	4・5類 (i,u)
	端・鼻	橋・歌	髪・花	肩・朝	海・秋
樺太(敷香)	LH/LHH		LH/LHL		HL/HLL
北海道(札幌)	LH/LHH		LH/LHL		HL/HLL

このデータが収集されてから70年以上が経つ。その間にサハリンの日本語にどのような変化が生じたのであろうか。幸いなことに、平山が1938年に調査した時の被調査者の一人に2008年7月にアクセント調査を札幌で実施することができた。

その結果、この話者のアクセントは4類・5類は変わらないが、1類・2類・3類については、二拍目の母音の広狭によって平板型か中高型が弁別されるようになった（Asahi forthcoming）。なお、戦後、サハリンに残って生活してきた日本人の間では、このアクセントに見られる経年的な変容の姿はこれよりも複雑で、個人差が顕著である（朝日2008a, 2008bなど）。日本語話者のほとんどがサハリンを離れ、それまでとは異なる規範意識の中で日本語が使われてきた結果とも受け止められる。

4. 2. 音声

次に、樺太方言に見られる音声的特徴を取り上げる。樺太方言は、北海道方言・東北方言の影響を強く受けている。

これまで収集してきた調査データから、次に音声的特徴が確認できた。発話例とともに見てみよう。なお、カッコ内は話者の【生年・性別・民族】を示している。

（I）イとエの混同

「イ」が「エ」（例1, 2）、「エ」が「イ」となる場合（例3, 4）がある。この傾向は、北海道海岸部方言、東北方言

などで観察される。

- (1) エ (胃) エブクロ (胃袋) でしょ 【1936年・男・日本】
- (2) エキ (息) エキ (息) かい 【1933年・女・ウイльта】
- (3) コイ (声) コイ (声) が出る 【1936年・男・日本】
- (4) コエ (鯉) コエ (鯉) だ 【1934年・女・日本】

(II) ヒとシの混同

「ヒ」を「シ」と発音する場合がある (例 5, 6)。これは、道南地域、関東南部、東北、長野、新潟、富山などで観察される (国立国語研究所 1966)。

- (5) たくさんシト (人) が入ったり出たりしてますよ 【1931年・女・日本】
- (6) 土地をシライテ (開いて) 農業したり 【1936年・男・日本】

(III) カ行・タ行子音の有声化

カ行、タ行子音が語頭以外の環境で有声化する現象も見られる (例 7, 8)。この現象も北海道海岸部、東北地方の方言的特徴である。

- (7) おかあさんに ニデル (似てる) んだ ワダシ 【1938年・女・アイヌ】
- (8) したから 今度 もっと ツガワナイ (使わない) から もっと できない 【1929年・女・朝鮮】

(IV) チとツの交替

ウイльта人に見られる特徴で、「ツ」が「チ」と発音される (例 9, 10)。これはもともとウイльта語の音韻体系に「ツ」が存在していないことによる。

- (9) いやー ナチガシカッタ (懐かしかった) ナチガシ (懐かしい) 【1926年・女・ウイльта】
- (10) 10 ガチ (月) 10 ガチ (月) 6 日 【1926年・女・ウイльта】

4. 3. 形態

次に、樺太方言に見られる形態レベルの特徴について述べる。形態レベルにおける特徴も確認されている。やはり北海道方言、東北方言の特徴を多く持ち合わせているが、中には西日本方言の特徴も垣間見られる。以下、その発話例とともに述べる。

(I) 格助詞「サ」の使用

東北方言・北海道方言で使われる格助詞「サ」の使用が確認できる。これまでの確認した「サ」の用法として、方向 (例 11, 12)・場所 (例 13) などがある。

- (11) 誰とか 遊びに 日本サ 来て (動作の帰着点) 【1936年・女・日本】

(12) で そっちのほうサ 見で (移動の方向) 【1938年・女・アイヌ】

(13) そこサ 一晚 泊まっていった (場所) 【1933年・女・日本】

(II) 推量・意志の「ベ」

推量・意志をあらわす助動詞「ベ」の使用が確認できる (例 14, 15)。関東・東北に広く分布する。

(14) あの 姉さん 来たら わかるべさ (推量) 【1937年・女・朝鮮】

(15) 大事な 話だ でも そんなこと どーぜ しないべさ (意志) 【1939年・男・日本】

(III) 可能の「ーニイ」

可能を表す「レル・ラレル」の他に北東北地方の方言形式である「ーニイ」の使用も認められる (例 16, 17)。

(16) 日本だ 日本語だから みんな わかる しゃべるニイんだけど 【1930年・女・ウイльта】

(17) どぶろくは 芋でも 造るニイシ 【1939年・男・日本】

(IV) アスペクト表現「ーテイル」「ートル」の使用

アスペクトを表す形式は基本的に「ーテイル」または「ーテル」である (例 18) が、話者によっては西日本方言形式「ートル」を用いる場合 (例 19, 20) もある。

(18) なに私たちも すこーしくらいは やつテタからね 【1929年・女・日本】

(19) 外に 出て 遊んどッタ わけさ 【1922年・男・朝鮮】

(20) その 家で 食べて 仕事シトルから 【1922年・男・朝鮮】

4. 4. 語彙

ここで、語彙に見られる特徴を取り上げる。ここでは、樺太野田小学校同窓会野田白樺会 (1980) に 551 語からなる「樺太ことば」を活用する。これに採録された語がどのような方言的特徴をお持ち合わせているのかを石垣 (1991)、小学館 (1995) で確認し、現在のサハリンの日本語話者 (三人) に使用意識について 2010 年 2 月にユジノサハリンスクで調査を行った。

以下では、石垣 (前掲)、小学館 (前掲) のいずれかに採録のあった「樺太ことば」を取り上げる。具体的には、その語形が使用されている地域によって、次の四つに分類する。

(I) 北海道に分布があるもの

北海道方言でその語形の使用が確認されるグループである。移住者がもっとも多い北海道から持ち込まれた方言

語形である。例：げれっぱ、たこ、ぼっこぐつ、等

(II) 北海道・東北地方に分布があるもの

次は北海道方言、東北方言で用いられているグループである。このグループに該当する項目数は他のものより多い。これらの地域からの移住者が主要グループを形成していたことが関わっていると考えられる。例：ねっぱる、へらからい、等

(III) 北海道と東北・北陸地方にかけて分布があるもの

北海道地方、東北地方に加えて北陸地方にかけて分布のある方言語形のグループである。サハリン居住者の出身地の多い地域の方言語形が持ち込まれている様子が改めて見て取れる。例：あづましい、かいべつ、かくまき、等

(IV) ((III) の地域に加えて) 関東地方以西の地域に分布があるもの

最後に、(III) の地域よりも広い地域で用いられる方言語形のグループである。関東地方以西の県名を見つけることができる。多くの場合、北海道・東北地方の住民が持ち込んだと思われるが、他の地方からの移住者が持ち込んだ可能性も窺える。さまざまな地域の方言語形が取り込まれていると考えてもよいだろう。例：かずける、かっちゃく、たかじょう等

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① Asahi, Yoshiyuki, On the relationship of two Japanese regional koines: evidence from pitch-accent patterns in Karafuto and Hokkaido Japanese, *Bamberg University Studies in English Linguistics*, 査読有, 54, 2010, 321-330.
- ② Asahi, Yoshiyuki, A new sociolinguistic taxonomy, 'cookbook,' and immigrant communities, *Slavia Centralis*, 査読有, 1, 2010, 113-123.
- ③ 朝日祥之, サハリンに生まれた日本語の接触方言, *日本語学*, 査読無, 29 巻 6 号, 2010, 28-40
- ④ 朝日祥之, 国語研の窓 ―暮らしに生きる言葉― サハリンで聞いた日本の流行歌, 査読無, 39 号, 2009, 1
- ⑤ Asahi, Yoshiyuki, Linguistic features of

a Japanese Variety in a Japanese Diaspora: An evidence from a Sakhalin Japanese speaker of Uilta, *Linguistic world of Sakhalin*. 査読有, 2009, 27-40.

- ⑥ Asahi, Yoshiyuki, 'Cookbook method' and koine-formation: a case of the Karafuto dialect in Sakhalin, *Dialectologia*, 査読有, 2, 2009, 1-21.
- ⑦ 朝日祥之, 樺太方言と北海道方言の関係についての一考察―サハリンでの現地調査データをてがかりとして― (山口幸洋博士の古希をお祝いする会編『方言研究の前衛 山口幸洋博士古希記念論文集』), 査読無, 2009, 178-194
- ⑧ Asahi, Yoshiyuki, Endangered Languages and Japanese Language Education in Sakhalin, Proceedings of the FEL XII Twelfth conference of the foundation for the endangered languages, 2009, 63-70.
- ⑨ 朝日祥之, サハリンの樺太方言における二拍名詞アクセント, *北海道方言研究会年報*, 85 号, 査読無, 42-56

[学会発表] (計 20 件)

- ① Asahi, Yoshiyuki, Japanese and British contributions towards sociolinguistic typology, LVL (Language Variation and Linguistic Theory), 2010.12.16, Lancaster University, UK.
- ② Asahi, Yoshiyuki, Rises and falls of the three Japanese regional koines, *New Zealand Language and Society Conference*, 2010.11.23, Auckland University of Technology, New Zealand.
- ③ 朝日祥之, 方言接触とことばの変化 (ワークショップ「ことばの変化と伝播」), 2010 年度日本語学会秋季大会, 2010.10. 愛知大学, 2010 年 10 月 23 日
- ④ Asahi, Yoshiyuki, 'Koineoid' as a result of koineisation, Sociolinguistic symposium 19, 2010.9.3, University of Southampton, UK.
- ⑤ Asahi, Yoshiyuki, 'Innovative contact-induced phenomena in an endocentric urban community of New

- Town, 2010 International Workshop on the Shaping of Language: the relationship between the structures of languages and their social, cultural, historical and natural environments, 2010.7.14, La Trobe University, Australia.
- ⑥ Asahi, Yoshiyuki, Recording the Japanese Language on Sakhalin, Open symposium, the Japanese colonial past of the Mariana islands, 2010.5.15, American Memorial Park, Saipan, NMI.
- ⑦ Asahi, Yoshiyuki, 'A Japanese Contact Variety on the Russian Island of Sakhalin, A Special Lecture, 2010.3.17, University of New England, Australia.
- ⑧ Asahi, Yoshiyuki, Dialect contact, isolation, and sociolinguistic typology, NINJAL SALON 7, 2010.2.16, National Institute for Japanese Language and Linguistics.
- ⑨ 朝日祥之, 樺太からの引揚者の生活環境と日本語習得: 北海道稚内市の場合, 定住外国人の日本語習得と言語生活の実態に関する学際的研究会, 2010.1.31, 国立国語研究所
- ⑩ 朝日祥之, 北海道・サハリンにおける言語景観, 日本の言語景観・世界の言語景観研究会, 2010.1.23, 富山大学
- ⑪ 朝日祥之, 樺太方言と千島方言の特性に関する一考察, 日本語変種とクレオールの形成に関する研究会, 2009.11.7, 国立国語研究所
- ⑫ Asahi, Yoshiyuki, "On the applicability of the 'cookbook method' into dialectology," SIDG VI, 2009.9.16, University of Maribor, Slovenia.
- ⑬ 朝日祥之, サハリンの継承言語と日本語, 継承言語研究に関するワークショップ, 2009.2.20, 琉球大学
- ⑭ 朝日祥之, サハリンにおける言語接触と日本語の地位, 第 35 回多言語化現象研究会, 2008.12.23, 国立民族学博物館
- ⑮ Asahi, Yoshiyuki, 'Endangered Languages and Japanese Language Education in Sakhalin.' *FELXII*, 2008.9.25, Fryske Academy, The Netherlands
- ⑯ Asahi, Yoshiyuki, 'Dialect transplantation studies in Japanese context, Special lecture, 2008.9.24, the Meertens Institute, The Netherlands.
- ⑰ 朝日祥之, ウイルタ語・ニブフ語話者の日本語樺太方言に見られる特徴, 北海道大学大学院文学研究科公開シンポジウム『サハリンの言語世界』, 2008.9.6, 北海道大学
- ⑱ Asahi, Yoshiyuki, On the relationship of two Japanese regional koinés: Evidence from Sakhalin and Hokkaido Japanese, *METHODS XIII*, 2008.8.4, University of Leeds, UK.
- ⑲ 朝日祥之, サハリンの樺太方言における二拍名詞アクセント, 第 178 回北海道方言研究会, 2008.6.22, 札幌市北区区民センター
- ⑳ 朝日祥之, サハリンに残された樺太方言に見られる言語変容—二拍名詞のアクセントを例として—, 第 86 回日本方言研究会研究発表会, 2008.5.16, 日本大学
- [図書] (計 0 件)
- [産業財産権]
- 出願状況 (計 0 件)
- 名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:
- 取得状況 (計 0 件)
- 名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:
- [その他]
ホームページ等
該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朝日 祥之 (ASAHI, YOSHIYUKI)
国立国語研究所・時空間変異研究系・准教授
研究者番号：5 0 3 9 2 5 4 3

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし